

2022年5月

2022年度
四万十町地域イノベーター養成講座
第2回 ビジュアルレポート

高知大学 地域協働学部
コミュニティデザイン研究室

実施概要

- 日 時：令和4年5月28日（土） 13時00分～18時00分
- 会 場：四万十町役場 大正地域振興局2階 大会議室
- 主 催：四万十町・高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室
- 実施内容：「地域のために何かしたい」「起業をしてみたいけど、まだ勇気がない」「何をして良いのかわからない」そういった方々を対象に全5回の地域イノベーター養成講座を開催。
一人ひとりが自分事として、地域課題解決や活性化を目指す「チャレンジする人材」の学びの場。

【タイムライン】

Time	Theme	Contents
13:00-13:20	チェックイン	<ul style="list-style-type: none"> • 今の気持ち
13:20-14:50	キーノートスピーチ	<ul style="list-style-type: none"> • 馬場 加奈子氏 (株式会社サンクラッド代表取締役／NPO法人学生服リユース協会理事長)
15:00-16:00	マイプロワーク	<ul style="list-style-type: none"> • グループに分かれてマイプロの共有
16:00-18:00	レゴ®シリアスプレイ®ワーク	<ul style="list-style-type: none"> • レゴ®を使用し自分の気持ちを表現する

開催概要

令和4年度 第6期生募集 地域イノベーター 養成講座

**自分と向き合い、
仲間と共に一歩踏み出す**

四万十町では、何か新しいことを始めてみたい、地域のために何かしてみたい、という方などを対象に地域イノベーター養成講座を開催しています。アイデア実現のための仲間づくりと学びの場を提供するだけでなく、やりたいことがまだない方やいろいろな学びを得たい方にもおすすめです。年齢や所属は問いませんので、お気軽にご応募ください。

主催：四万十町 協力：高知大学地域協働学部 コミュニティデザイン研究室

回覧

四万十
ビジネスプラン
コンテスト
指定講座
※特典
一次審査免除



スケジュール・内容

※時刻や内容は多少変更する可能性があります。あらかじめご了承ください

- 1** 4/23(土) 16:00-19:00 ~ 4/24(日) 10:00-12:00 **自分の想いを掘り下げ、「本当にやりたいこと(will)」を見つけ出す**

自分のライフストーリーを振り返り、対話を通じて「本当にやりたいこと(will)」の種を見つけていきます。
- 2** 5/28(土) 13:00-18:00 **自分と紐づいたマイプロジェクトを描く**



馬場 加奈子氏 (株式会社サクラッド代表取締役/NPO法人学生履修会協理長)

香川県生まれ、10年間、陸上競技に励み、高校3年時に円盤投げで「はまなす団体」優勝、生命保険会社勤務などを経て、2010年に全国初の学生履修スタイル「さくらや」を起業。各種メディアに取り上げられ、「さくらや」の運営で地域の子育てを支援し、その声で脱退し、「さくらやパートナー」を募集開始。1日5時間・週4日営業でも成立立つビジネススタイルが子育て中の母さんにも取り組みやすいと評判になり、北海道から沖縄まで全国に店舗を拡大。自ら、経験を活かし、起業家やSDGsをテーマとしたセミナー等で「地域共感ビジネス」を講演し、好評を得ている。
- 3** 6/25(土) 13:00-18:00 **創り出したい世界をデザインする**



丑田 俊輔氏 (ハバタク株式会社 代表取締役)

福島県会津若松市生まれ、慶応大学商学部在学中にプラットフォーム事業の立ち上げに参画。公共施設をまちづくり拠点として再生する「ちよだプラットフォームスクエア」、日本IBMを経て、2010年にハバタクを創業。国内外を舞台に様々な教育事業を展開。2014年、秋田県五城目町に移住。田舎発起事業を育む「ドチャペン」、古民家を舞台に地域を繋ぐ「シェアビレッジ」、遊休施設を遊び場化する「たのめろびろ」、住民参加型小学校建設「越える学校」支援等を推進。2021年、共創型コミュニティプラットフォーム「Share Village」を公開。
- 4** 7/31(日) 13:00-18:00 **小さな一歩を踏み出してみる**



鬼丸 美穂氏 (料理研究家/副業料理人)

北海道出身。大学卒業後、上京し、IT系の仕事に従事。2010年9月、「鬼丸食堂」として出張料理やケータリングを始める。同年11月より、満足した分だけお支払いいただく投げ銭形式の食堂イベントを都内各所で不定期に開催。おみやげの価値を味わった方が自分自身で決める。お金以外の価値もあるもので支払うことも可能にする。価値とお金について考えていただくことを目的とした実践的イベント「現在在東京都武蔵小金井市の「八方知人」にて、不定期開催。2016年10月より、東京・大手町で三宅地所が運営するスタートアップインキュベーター「3×3 Lab Future:さんさんらばフューチャー」のキッチンコネクターとして、キッチンを中心としたコミュニケーション促進、イベント開催を支援。キッチン利用イベントのサポートを行う。テーマやゲストのストーリーに合わせて、地域の食材を使った郷土料理や世界各国の料理を再現することを得意とする料理研究家。
- 5** 8/27(土) 13:00-18:00 **最終報告会**

5か月間のアクションと気づきを共有します。

受講生の声

坂山 陸さん

全4回の講座では、様々な経験の講師の方たちから、現場を経験されてきた人ならではの興味深い講義を聞くことができました。実際に行ってきた事例に沿って説明してくれるので、自分のプロジェクトの参考になること間違いなしです！

山本 由紀さん

チャレンジすることが好きで、職場でいかせてもらったイノベーター講習でした。自分自身を俯瞰してみる、過去の自分と向き合う、初めてのことに戸惑いもあつた。プロジェクトをどう進めればいいのか、半年の間でたくさん悩み考えました。大学生の若いパワーをもらい、受講生とたくさん語り、貴重な体験をすることができ、本当に参加して良かったです。

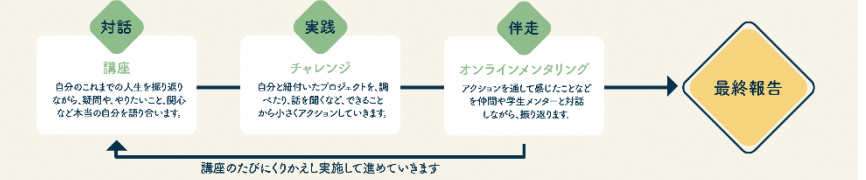
正岡 千佳さん

「自分のことが分からない」、講座当初はそんな自分にモヤモヤしていましたが、自身の正しい立ち回りを振り返り共有していくことで、やりたいことや目標ができました。イノベーター講座は、本音で語り合える空間で今まで気付かなかった発見や、新たな自分に出会える機会だと思います。受けて損はないです！

宮崎 崎地さん

全国から来てくださる色々な経歴の講師の方の話を聞いて、自分のやりたいことの実現のために何をすべきなのか、何をやっているのかという話を知ることができました。また、学生メンバーとの毎回のミーティングを通じて軌道修正しながら、自分が何をやっていきたいのか、何をさせたいのかを考え、言葉にすることができました。

講座の流れ



- 募集人員 10名程度を予定
- 受講料 ① 町内に住所がある方… 5,000円 ② 町外に住所がある方… 10,000円
- 講師 高知大学 地域協働学部 須藤 順 先生
- 応募書類 右下のQRコードの応募フォームからご応募していただくか、エントリーシートに必要事項を記入して、下記のいずれかの方法でご応募ください。
 - ① 持参の場合は、人材育成推進センター、もしくは各地域振興局に**4月15日(金)**までに提出してください。
 - ② 郵送、メール、もしくはFAXで人材育成推進センターまでお送りください。なお、エントリーシートは、四万十町ホームページからもダウンロードできます。
- 受講資格 四万十町で活動する意思のある方、並びに、四万十町の資源を活用して活動する意思のある方で、原則として、全講座に参加できる方を対象としています。
- 受講料納付方法 受講料は、第1回目の講座の時にご持参ください。
- その他 講座内容や開催場所(四万十町内)等の詳細については、受講生の方に通知いたします。
- 「四万十ビジネスプランコンテスト」への応募を検討されている方は、イノベーター養成講座を受講することで、長い時間をかけて自分のプランをじっくり考えることができます。また、指定講座のひとつとして、当講座を受講することで、「**四万十ビジネスプランコンテスト**」1次審査が免除されます。
- サポーター制度 当講座を修了された方は、次年度以降サポーターとして、**無料**でご参加いただけます。

(注) 各回の間に、具体的なアクション(調査など)を行っていただくことに加え、事務局および運営チームとの相談会を適宜開催し、プロジェクトの実現に向けたサポートを行います。

事務局

四万十町役場人材育成推進センター
(担当: 横山 光一 吉村 愛)

〒786-8501
高知県高知郡四万十町掛川3番7号

E-mail 103060@town.shimanto.lg.jp
TEL 0880-22-3163
FAX 0880-22-3345

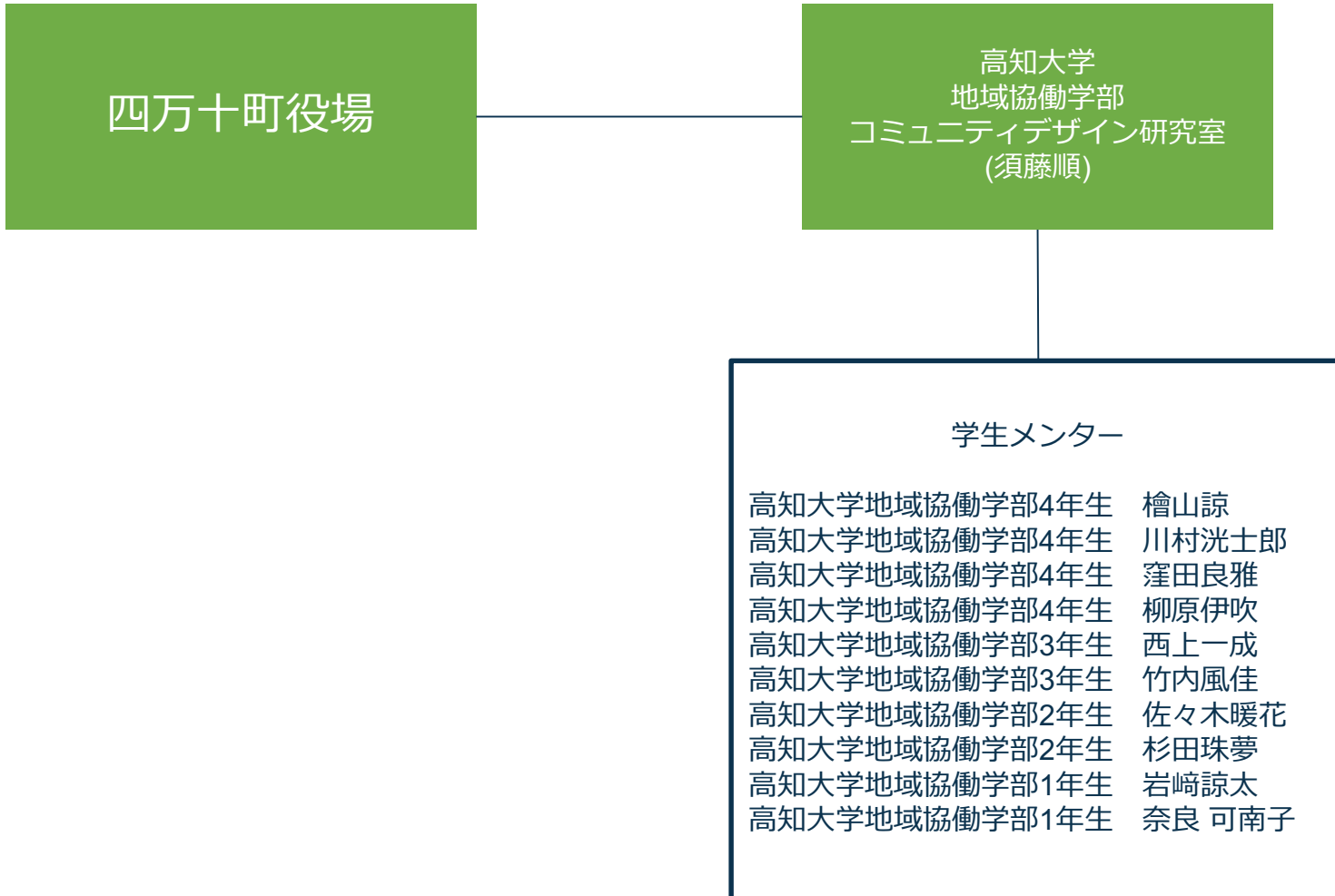
お申込みはこちら



令和4年度 地域イノベーター養成講座エントリーシート

氏名		フリガナ	
職業	電話	メールアドレス	
年齢	性別	住所	
あなたが現時点で思い描いているプロジェクトや、四万十町でやってみたいことがあればご記入ください。			

実施体制



**1人ひとりが自分事として、
地域課題解決や活性化を目指す
「チャレンジする人材」の学びの場**

目指すべきゴール

1

一人ひとりが自分の経験の中から、自分自身のミッション（使命）を見つけ出す

2

“ジブンゴト”で取り組むことができるプロジェクトを自分自身で生み出す

3

ジブンゴトのプロジェクト（マイプロジェクト）に取り組む仲間同士がともに切磋琢磨しながらも支え合う関係を創る

場のルール

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

マイプロジェクトとは？

自分に基づいた (M y)

「何かを、プロジェクトの形にして (pjt) やってみる」
ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

自らの経験の中から、
自分のミッションを生み出していく

マイプロで活用するシート

マイプロ Me編	名前 (ニックネーム、読んでほしい名前、その由来)	作成日: 場所:
似顔絵・写真	みんなが知らない自己紹介	
自分ストーリー 昔 (~小学校)	人生グラフ:横軸は年で、縦軸はイキイキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、読んでいた時を見える化しよう!	
(~中学・高校)		
(~専門・大学)	みんなが知らない自慢・一発芸・得意技	
(~現在)		
今	マイプロジェクトの発表へ	

← me編シート

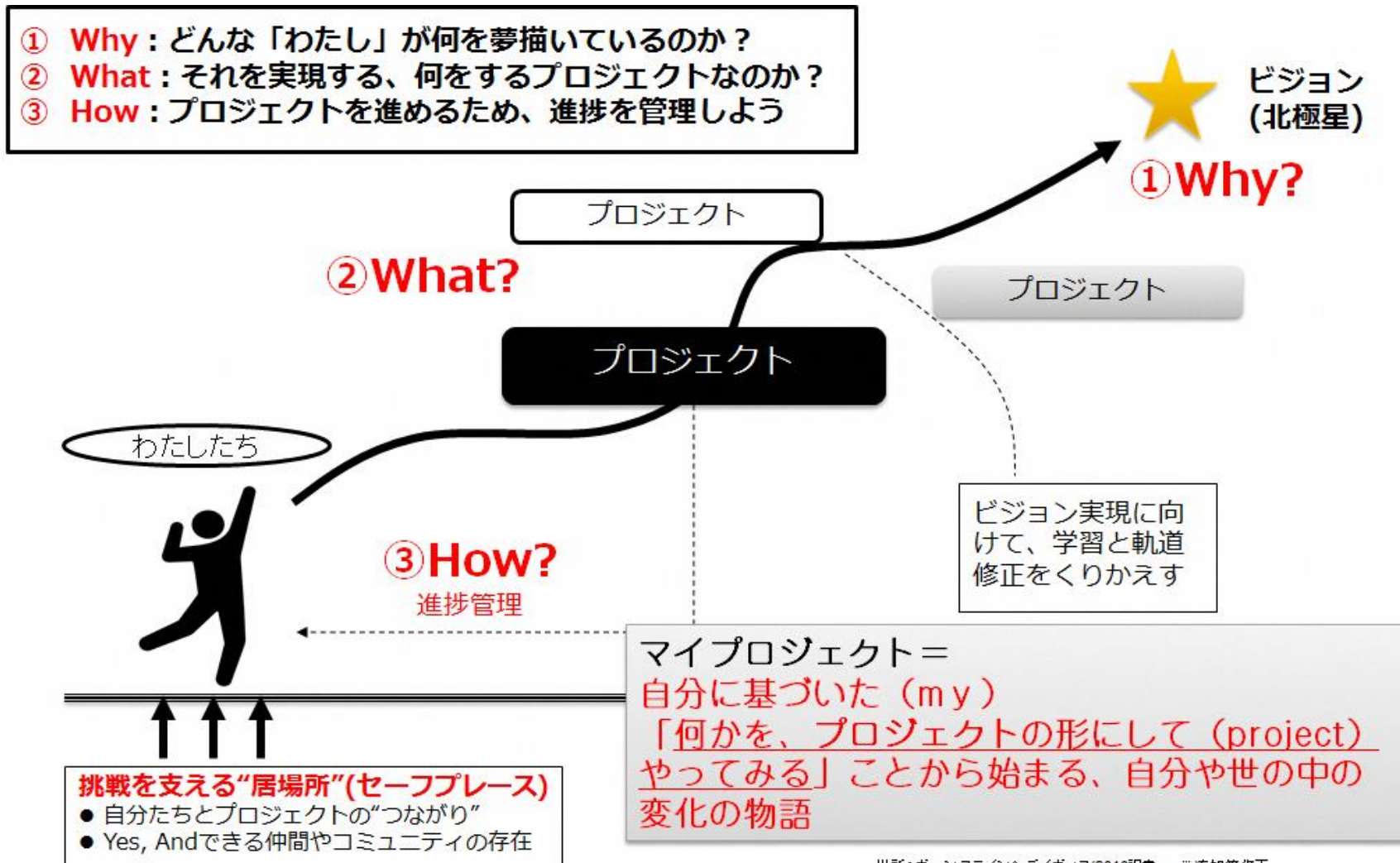
- ・自分のライフヒストリーや好きだったこと、楽しかったこと、つらかったことなど
- ・自分の人生をグラフにしてみる
- ・普段見せない自己紹介

project編シート→

- ・自分と紐づいたプロジェクトを書き出す
- ・それは誰にどんな価値を生み出すのか

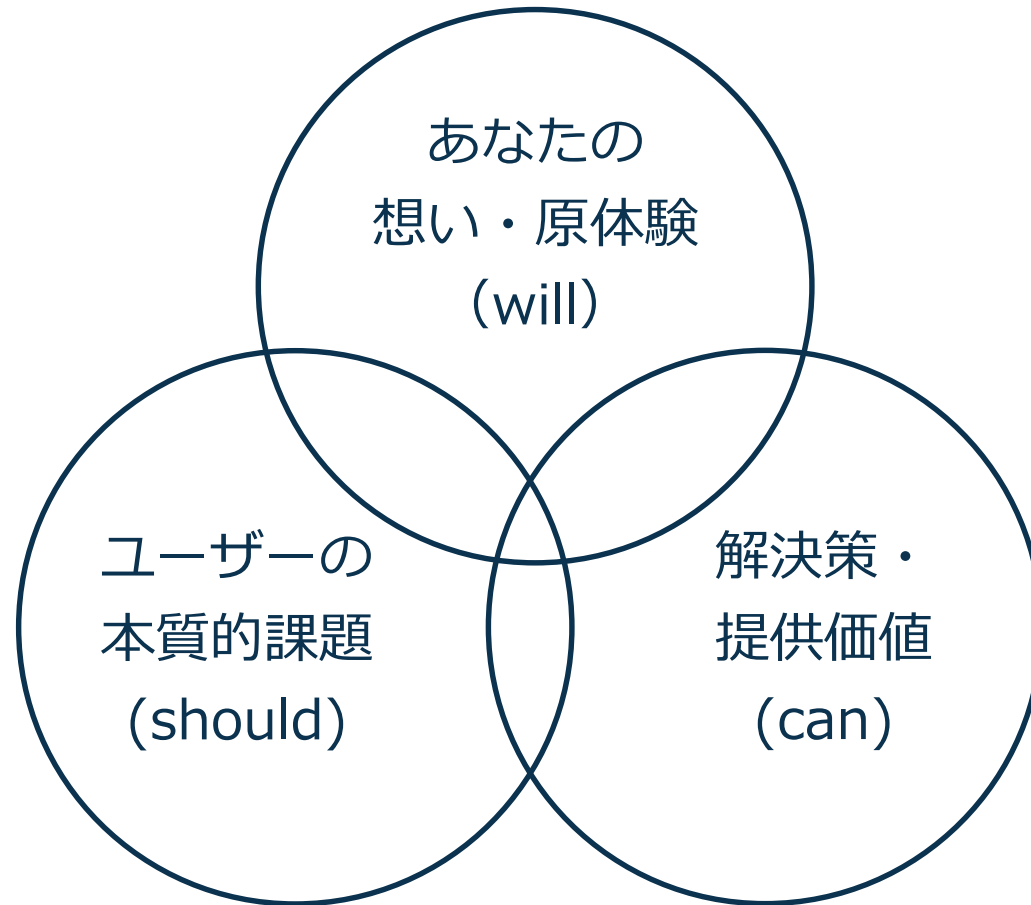
PROJECT編	
わたしのプロジェクト(マイプロジェクト)を一言で!	
■実践したいプロジェクトの概要	
■「やってみたい!」と思った、理由や背景、原体験	■「誰」にどんな価値を生み出しますか?

マイプロが目指すイメージ



出所: ボーンSTEIN& デイヴィス(2010)訳書, p.104 滝加単修正
 ※ 井上英文作成

ポイント：徹底して自分のwillに向き合う



チェックイン

前回に引き続き、受講生、学生メンターともにチェックインを行い講座を開始した。今回は初参加の受講生や学生メンターもいたため、自己紹介も交えながらのチェックインとなった。また、第5期の受講生も参加しており、賑やかな雰囲気でのチェックインを行った。



キーノートスピーチ

キーノートスピーチでは、馬場加奈子氏より「自分と紐づいたマイプロジェクトを描く」についての講義が行われた。

馬場加奈子（株式会社サンクラッド代表取締役/ NPO法人学生服リユース協会理事長）

香川県に生まれ、10年間、陸上競技に励み、高校3年時に円盤投げで「はまなす国体」優勝。生命保険会社勤務などを経て、2010年に全国初の学生服リユース店「さくらや」を起業。各種メディアに取り上げられ、「さくらや」の運営で地域の子育て家庭を支援したいとの声が殺到し、「さくらやパートナー」を募集開始。1日5時間・週4日営業でも成り立つビジネススタイルが子育て中のお母さんも取り組みやすいと評判になり、北海道から沖縄まで全国に店舗を拡大。自らの経験を活かし、起業やSDGsをテーマとしたセミナー等で「地域共感ビジネス」を講演し、好評を博している。

◆「さくらや」ができた理由

馬場氏は女手ひとつで子ども3人を育ててきた。生活が厳しく親戚もいない中、子どもが大きくなるたび買い換える必要のある制服は、家計にとっては大きな痛み。いつしか子どもの成長を素直に喜ばなくなっていた。同僚に相談したところ、同じ思いをしている母親が多くいることを知り「さくらや」の設立を決意。初年は自分の足で制服を集めて50着からスタート。母親の声を丁寧に拾って行くことや、地道なポスティング活動が続け、口コミが広まり、今では多くの母親がさくらやに足を運ぶようになった。現在はパートナー制度が生まれ、ノウハウを全国に共有し約100店規模にまで拡大している。

◆「さくらや」で大事にしていること

さくらやの活動は地域貢献にもつながっている。馬場さんが必死に一人でやっていたものを地域の方が手伝ってくれるようになり、現在は高齢者や障がいを持つ人の働く場としての機能や、制服として使えなくなった生地を再利用して作った雑巾を小学校に提供など、地域の方と関わる機会を多くつくっている。また、さくらやは制服を売るだけでなく、地域の人と企業とを繋ぐ役割も担っている。さまざまな形で企業がさくらやを支援し、活動が幅広く展開されることで、間接的に地域に貢献することにもつながる。

◆できないことを失敗と思わない

さくらやを始めた当時は稼ぎも少なく、その後の戦略がうまくいかなかったこともあった。しかし、馬場さんはそのことを失敗だと思っていない。「できません」とすぐに言うのではなく、0から1にすることをとりあえずやってみることが大事だと話す馬場さん。その背景にあるのは、学生時代に陸上に打ち込んできた経験からだ。全国のさくらやを運営するパートナー向けのセミナーでも、上手いかなかった時はそれを失敗と思うのではなく、チャレンジをした結果として、新しいノウハウが蓄積されたと捉えるべきだと伝えている。



講演をする馬場氏



馬場氏の話聞く受講生

マイプロワーク

マイプロの詳細やワークへの取り組み方を高知大学の須藤が説明を行なったあと、AからEまでの5グループに分かれてそれぞれのマイプロを共有した。マイプロに対しての質疑応答などを繰り返し、対話を楽しむ様子が見られた。マイプロを共有し終わった後には、マイプロプレゼントカード1枚1枚にグループのメンバーがコメントを記入した。



説明をしている様子



プレゼントカードを記入している様子



マイプロの共有をしている様子



質問をしている様子



マイプロの詳細を聞く様子



説明中の会場の様子

レゴ®シリアスプレイ®ワーク

レゴ®シリアスプレイ®ワークでは、レゴ®で作品を作ることを通して各自が表現を行った。作品について話をしていく中で、自らが本当に考えていることについて向き合っている様子が見られた。各自が作品について紹介をしたあとは、グループごとに質問や対話を通じたコミュニケーションをとることで、さらに考えを深めている様子だった。



レゴ®を触りながら自分について考えた



グループ内での共有が行われた



レゴ®を触りながら解説する様子



対話をする様子



作品から考えたことをまとめている



グループでの質問の様子

マイプロの進め方

① マイプロシート(me & pjt編)をみんなの前でシェア



② みんなからフィードバック



③ プレゼントカードを書いて渡す



④ アクションを試してみる

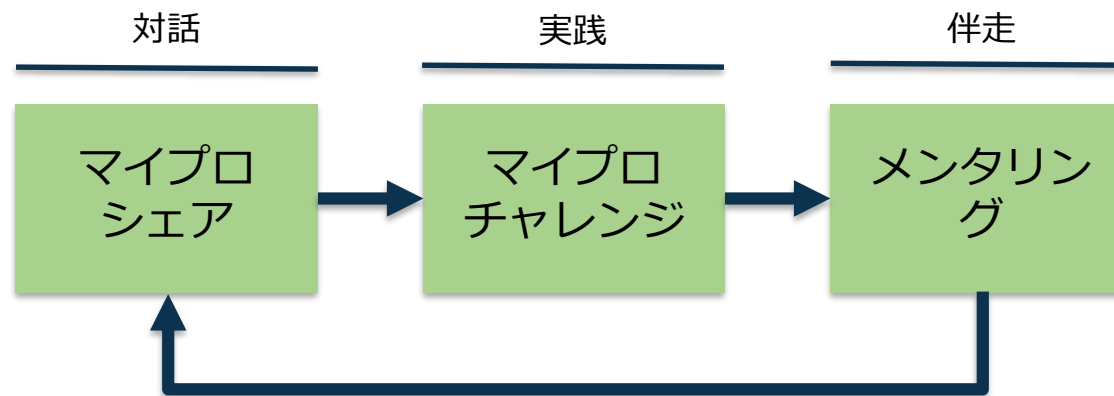


⑤ 気づきを踏まえてシートを書き換える



※みんなで支え合いながら、
このサイクルを超高速で回していく

四万十町地域イノベーター養成講座のプロセス



- 四万十町地域イノベーター養成講座は、誰かが知識や方法論を教えるのではなく、受講生一人ひとりと大学生メンターと一緒にマイプロジェクトを進め、喜びや悩み、想いを共有しながら一歩ずつ前に進んでいくことを目指します。
- 対話を通じて一人ひとりのマイプロを共有し、一人ひとりが小さな実践を行い、それを受講生と大学生が相互にメンタリングを行いながら、「本当に自分がやりたいこと」に取り組んでいきます。
- こうしたプロセスを通じて「ジブンゴトをミンナゴト」にしていくための一人ひとりに法則を見つけ出していきます。
- 地域にイノベーションを起こすためには知識や方法論、メソッドはもちろん、本当に自分がやりたいこと、気になることを、仲間とともに小さな一歩を進めることから始まる、というのが私たちの基本的な考えとして講座を進めていきます。

問い合わせ先

四万十町役場 人材育成推進センター

担当：横山 光一・吉村 愛

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

TEL 088-022-3163 FAX 088-022-3123

E-mail 103060@town.shimanto.lg.jp

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：准教授 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL 088-788-8077 FAX 088-888-8043

E-mail j.suto@kochi-u.ac.jp

Web <http://www.communitydesign-kochi.jp/>

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。